

ロースターです。

想定外に全面見直しとなってしまいました。英文による説明文そのものは、故ジム・ピットさん(牧師でもあり国語＝英語教師でもあったので)の物をそのまま踏襲しているつもりなのですが。なんせ彼、(今や人の事は言えませんが)お爺ちゃんだったせいとか？写真や段落が等の体裁が滅茶苦茶で、かつリンク先が無い物が殆どでしたので、大量にあったせいもあり、申し訳ないですが、問答無用に、その辺は、消し(オミットし)。かつ改造してあります。この私の施したプロセスで、おかしい点があれば、どしどしお申し付けください(ただし全て英語です。日本語にせい！なんて御無体な注文は受け付けません)。またファイルサイズを昨今のデータ速度向上に合わせ、高画質にしたのですが、その分、ファイルサイズがでかくなり、WEB 担当者に、そのままでは、送れない事態が起きています。ですから(今日現在では)まだ、未完の状態ですのでご注意ください。ただ年式や生産数は若干の誤差がありますが、そのまま OK としていますので、ご自身のコレクションは、何台作られ？何年式だったのか？は、このロースターページを参考にしてご確認ください。あ！スハとマイテが入っていない(売り切れたのに・・・)

<https://www.asterhobby.com/railwayhistory.html>



あたふた、しています。

ここの処、人出は減ったせいとか？優秀？な人材がいないせいとか、私にかかる諸々負担が増え、あたふたとしています。技術は上がり馳ごっこの様に、上がった技術水準をブレイクスルーする人間が後を絶ちません。此の尽でも何の痛痒も感じていなかったのに、セキュリティの「向上」のお題目の下、対抗措置が雨後の筍の様に出て生きて、お爺さん達は、その対応に追われています。

今回の WEB ページやデータベースソフト、CAD の更新はそのためです…。

まあ歳のせいとか？気が短くなったのかも？しれません。皆様にはご迷惑をお掛けしている事を最初にお断りしておきます。と、言い訳がましい出だしですが、この世界のお客様からの期待が分かってしまい、それにお答えしたい気持ちは変わりませんので、申し越し気を長くお待ちください。

本当に、自身の能力の無さに参っています。どうやったら、簡単に組み立てられ、かつ軽く回るのか？見当が付きません。ただパワー（火力）は、従来製品に比べ、あります。し、ボイラーの能力もあります。問題はエンジン（バルブギヤ）なんです。部品精度は出ているのですが…もう暫く解決にお時間をください！まあ BR80 と JNR Type7100（US Poter mogul/弁慶・義経）は、完璧ですのご安心ください。あ BR80 は RC を簡単に着けられる様（素人でも特殊な工具を用いず、改造出来るように）に UC も考えています（ですから後になるのです）そこは欧州任せです。我々はコミットしません。

改めて。

ホームページの中で復活を望まれることが大きかったのが、今は無きアドビフラッシュで作られていた、『トイトレインの歴史』でした。現状では工事中（under construction）になっています。

しかし、これを作ったのは 2003 年から 6 年にかけて、そして 11 年の大震災で、データーが、物理的に全く無くなってしまっているの、復活は無理だろうと考えていました。

写真などの資料は、もう跡形も（出展が何処だったかも）ないです。また旧 WEB サーバー内のアドビのデーターも回収不可能との返答が来ていました。

しかし、原稿が残っていました。しかし、これはまさに原稿（ドラフト）で、英語を直訳しただけのものです。

ですから、テニオハや時制、英語と日本語がごっちゃになっていて、体裁が滅茶苦茶で、要は、殴り書きがしてあります。

しかし、かなりが、編年体形式で、年号で 1 行ずつ書かれている。これだけはラッキーでした。とはいえ原稿だけで、約 8 千文字もあります（驚）ただ読み直し、リライトしていくうちに、かなり良く書かれた内容（資料的な価値はあるでしょう）なのが、理解できます。爺さんのリハビリ用にはもってこいの約 8 ページです。これをどう？皆様にお見せするか？ちょいと悩んでおります。

以下は、書き直した原稿の極一部です。（バセットロックの模型の写真などがないんです@涙。しかし、出がユダヤ人やロマ人＝ジプシーと言うだけで。昔は迫害されていたことが良く理解できます）

1850年代になってトイトレインが出現

ドイツにおける最初の商業鉄道は Nurnberg – Furz 間の Ludwigsbahn で 1835 年開通。

最初に使われた機関車が英国人ロバート(ジョージの弟)スチーブンソン製作の Der Adler(=Eagle)号だった。

その百年後 100 周年記念にメルクリンが O ゲージでアドラー号を製作。

1835 年代すでに Nurnberg は、トイメーカーの中心地であった。同鉄道開通後まもなくして鉛とブリキでできたトイトレインが売られ始めていた。

同じころフランスでもブリキのトイトレインが作られるようになった。

フランスの最初の商業鉄道はドイツより 7 年早く 1828 年開通(SL-Kienne Andrezieux)間。

ドイツ初期メーカー： 1859 Maerklin 人形用キッチンをブリキで生産

1863年 BING 社

(メルクリンよりも歴史は古い、設立者がユダヤ人だったので、No. 2 となった。1933 年まで存続。第一次大戦前は 5 千人を抱える最大のトイトレイン会社だった。ライブと発条仕掛け(クロックワーク)トイ。

ニュールンベルグスタイル＝ブリキにリトグラフ印刷、パンチング、プレスと言われるマスプロシステム(低価格)に強み＝メルクリンと競争

1880年 Maerklin 社 模型機関車ブリキ製でゲデールは、はんだけ付と手塗り。高価

1886年 仏人 George Carrett が最初 Bing 社の援助でスタート

Nurnberg Carrette 社の 2 – 2 ライブ(Oscilating)1895 年に 1 番ゲージで作られた。(ドイツで 3 番目の鉄道模型会社)

カレット氏は、フランス人だったため 1917 年ニュールンベルグから追い出された。ライブ主体

1887年 Fleischmann

1881年 Ernst Paul Lehmann in Brandenburg-am-Havel)

1880年 Guntermann

1886年 Ernst Plank

1851年 Karl Bub

1898年 Doll & Cie

1875年 Schoenner

1891年 by Maerklin Clockwork Train set displayed at Leipzig Spring fai

メルクリン社は、トイトレインを鉄道模型システムのうちのひとつとして位置つけた最初のバイオニアでありまたゲージを分類した最初の会社。これが以後のトイトレインの発展の基礎となる。

最初の「システム鉄道」とは、ゼンマイ仕掛けの機関車と客車、そして拡張可能な軌道システムからなる鉄道システムであった。

英国初期メーカー： 1899年 Bassett-Lowke (バセットロック) 社設立

同社は Father of Model Railways (鉄道模型の父) と呼称されている。

Wenman J.Bassett-Lowke) 1900 年のパリ博で Bing, Maerklin, Carrette 社のトイトレインに感銘を受けた。Bing – Bassett Lowke は 1933 年まで提携。

(Bing = Piston Valve, Double acting cylinder system)

Gauge 3 (63mm or 75mm), Gauge 2 (54mm), Gauge 1 (45mm or 48mm) & Gauge O (32mm or 35mm).

1890 年まではゲージのスタンダードは無かった。

この頃にスケールとゲージが国際的に標準化された

O ゲージ(32 or 35mm) – 1 番ゲージ(45 or 48mm) – 2 番ゲージ(51 or 54mm) – 3 番ゲージ(72 or 75mm)が、規格化された、鉄道模型用の軌間であった

1891 年 Leipzig Spring fair Maerklin catalog (ライプチヒの春祭り用のメルクリン社のカタログ) でゲージを分類 O – 1 – 2 – 3

ついで 1894 年 Maerklin のライヴァル Bing がメルクリンにならってゲージを分類：37 – 48 – 60 – 75mm

1895 年 Bing 社のカタログでゲージを正式に分類した。O – 35 I = 48 II = 54 III = 67 IV = 75mm

以後他社はメルクリンや Bing のゲージにあわせて模型を作るようになった。

アメリカ初期メーカー： 最初はクロックワークとライブ初期のメーカー。

主な者は Eugene Beggs of Paterson, NJ で 1875 年にライブトレインの特許を

を

とった。この模型は今の gauge one (45mm) の大きさで 4 – 4 – 0 だった。

1906 年まで存続。

1882 年 Weeden Manufacturing Co. Massachusetts :

ゲージ 2 のアルコール炊き 2 – 2 – 0 Oscilating engine.

19 世紀の、もうひとつのメーカーは、ベッグから別れた John Garlie 社 1904 年まで存続。

20 世紀変わり目頃から輸入物(Maerklin, Bing, Carrett, Schoenner)が横行。

最初の動くトイトレインはライブであった。そしてクロックワークがすぐそれに続いた。

動力について

世紀の変わり目まではトイトレインの動力は、クロックワークとライブスチームであった。

1892 年にカレット社が最初に電動トイ(Street car/Tram)を出したが性能は良くなかった。

これは 2 線レール、バッテリー搭載のものだった。

1895 年 Schoener も電動をだした。しかし電動で最初に成功したのは、1897 年アメリカのモーターの会社を作ったトイトレインが一番良かったとされている。カーライル & フィンチ (シンシナチ、オハイオ)

ヨーロッパでは、最初の電動トイトレインはメルクリンが 1898 年蒸気機関車模型に電動モーターを搭載して製作したのが最初と認められている。

メルクリンは、世紀の変わり目には、ぜんまい仕掛(クロックワーク)、ライブスチームと、電動モーターの 3 本立てであり、4 種類のゲージ(軌間)、O ゲージ・1 番ゲージ・2 番ゲージ・3 番ゲージが規格されていた。

当時はメルクリンが最強のメーカーであった。

Bing, Carrette, Schoener & Plank 社はメルクリンに追随した=真似をした。

安物はイスマイヤーとヘスだった。

20 世紀に入って、比較的妥当な値段でトレインセットが手に入るようになった(小さい円レール、機関車、客車のセット)。ドイツメーカーはアメリカへの輸出競争が始まった。

モデルは Clockwork (ゼンマイ仕掛けの) Gauge 1-2-3 と live steam. モデルであった。